

---

# 白雪と深紅

千葉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白雪と深紅

### 【コード】

N5836S

### 【作者名】

千葉

### 【あらすじ】

どうかその時までお元気で

真赤なそれは、真白なそれに流れ落ちた。

自ら噛み切った親指。

真赤な雫は滴り落ち、今直降り続けている真白な雪の上へと痕を残す。

微かな熱を持ったそれに溶かされた雪と混ざって、歩いて来た道の上へと点々と其処に存在していることを示していく。

いつかあいつと交わした契りは、流れるそれと共に溶けて消えていつてしまいそうだった。

それが悲しくて、立ち止まりそうになる。

「寂しいね。」

「くだらないね。」

あいつはよくそう言って笑みを零した。

最期のときも真赤なそれに染まりながら、笑っていた。それを見て、不覚にも美しいと思ってしまった。

自らに流れるその赤を、美しいとは思えない。

流れ、滴り、溶かし、この世界へと縛り付けられる。

まだ生きている。私は生きている。  
その真実を否定することが出来なくなる。

真白なそれは全ての音を吸い取っているかのようで、軋むような足音さえも耳に入ってこない。  
それともこの耳は、すでに音を失ったのだろうか。

真赤なそれは、滴りを止めた。

傷は塞がった。

まだ生きている。私は生きている。

会えるのだろうか。この世界を離れば。  
それでも私にはまだ、やるべきことがあるのだ。

失うものばかりのこの世界を愛せたそのときは、あいつと交わした赤を滴らせ、歩んで来た道を見せ付けてやろう。  
あいつのそれよりも、ずっと立派なそれを。

この世界を愛せたときは、  
もう一度会いにゆこう。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5836s/>

---

白雪と深紅

2011年10月7日23時33分発行